88288H02

地歴最新資料

第 20 号

ニカラグア西部の都市グラナダ中心部の街並み。グラナダは 1524 年にスペインのコンキスタドール，フランシスコ・エルナンデス・デ・コルドバによって創設され，名前もスペインの都市グラナダに由来する。スペイン植民地時代の面影を残している。

INDEX

特集❶　大航海時代の南蛮菓子　料理が繋ぐ日本とアユタヤ…… 2
東京大学史料編纂所准教授　岡　美穂子

特集❷　歴史教育にジェンダーの視点を生かす…… 5
私立高等学校・中学校教諭　日本中世史・女性史研究者　野村　育世

特集❸　国際協力の現場から…… 8
タンザニアの人々の生活を支えるインフラ開発（JICA タンザニア事務所　藤井　輝明）…… 8
ヨルダン UNRWA 校での教師経験を通して（札幌市立真栄中学校　保健体育科教諭　高橋　舞）… 9
それでしあわせになれますか？（在インド大使館　外務省在外公館専門調査員　山本　恭平）…… 10
JICA の職員の方に聞きました …… 11
フォトギャラリー …… 13

解説　2017 年に登録された世界遺産 …… 14

第一学習社

特集 ❶

大航海時代の南蛮菓子　料理が繋ぐ日本とアユタヤ

東京大学史料編纂所准教授　岡　美穂子

はじめに

筆者は常々，従来の日本の歴史学では，「南蛮」と呼ばれてきたスペイン・ポルトガルと日本の交流から生じた諸現象（政治・経済・文化上の）について関心を持っている。現代の我々の生活の中で，最も身近に感じる「南蛮」は，カステラを代表とする南蛮菓子ではないだろうか。ポルトガル人がもたらしたと考えられている砂糖と鶏卵を多く用いた南蛮菓子の生産地としては，とくに長崎がよく知られるが，博多でも「鶏卵素麺」という銘菓が愛好されている。「鶏卵素麺」もまた他の南蛮菓子同様，当初は長崎の名産品であったが，江戸時代に博多でも作られるようになった。この「鶏卵素麺」にそっくりな菓子が，ポルトガル由来の菓子として伝わり，日常的に愛好されている地域が日本以外のアジアの地域にあることをご存じだろうか。その地域とは，その昔シャム王国と呼ばれたタイである。しかも，ポルトガル菓子の伝来には，一人の「日本人女性」が関わっているというのが現地の定説である。

▲①チェンマイの市場で売られる鶏卵素麺

タイに伝わる南蛮菓子

タイでは，ポルトガル人伝来といわれる卵の黄身と砂糖を大量に用いた菓子には，「黄金 Thong」という言葉が冠せられている。卵の黄身に多量の砂糖を加えたこの種の菓子は，タイ人好みの黄金色の輝くような彩から，祭りや祝祭日の菓子として重用されている。とくに「フォイ・トーン foy thong」と呼ばれる，日本の鶏卵素麺によく似た菓子は，タイの人々の間で愛好されている。ポルトガルでは，糸状の卵菓子を，「卵の糸 fio de ovos」と呼ぶ。昔の料理書には，「王様の卵 ovos reais」「卵の麺 aletria de ovos」などの名前で登場することもある。現在のポルトガルでは，クリスマスの菓子のひとつとして知られている。

卵黄・砂糖系の菓子が，タイ全土で広く愛好されているのに対し，トンブリー（現在はバンコクの一地域で，1767年から15年間首都とされた）の旧外国人居留区に建てられたサンタ・クルス教会近隣の菓子屋タヌシンガ・ベーカリーに伝わる菓子は，この地域に限定的なものである。それは，「カノム・ファラン・クティ・ジン khanom farang kuti Jin―唐寺のヨーロッパ菓子（以下カノム・ファランと称す）」と呼ばれている。「farang」はタイ語で西洋全般を意味するが，元々は，マラッカ以東の地域，とくに中国でのポルトガル人の呼称「仏朗機（フランキ）」からきた言葉であると考えられるので，伝来どおり，ポルトガル系の菓子と考えてよいであろう。

この「カノム・ファラン」は，日本のマルボーロや甘食のような円形の菓子パンに，ドライフルーツが入ったものである。材料は，鴨の卵，砂糖，小麦粉とシンプルであるが，その焼き方に特徴がある。まず窯の上に砂利を敷き，これを下から加熱する。そこに生地を入れた型を置き，その上に鉄板を被せて炭を置き，さらに加熱する。つまり上下双方から熱が加わるという方法である。この作り方は，カステラの江戸時代の製法「引き釜」とよく似ている。

サンタ・クルス地区には，カトリックの祭りの期間に調理される他のポルトガル起源といわれる料理（子牛のスネ肉ロースト，ポルトガルのコジード【おでん】風のもの）もあり，タヌシンガ・ベーカリーの店主は自分たちの先祖が，ポルトガル人と日本人の混血であったと信じている。

アユタヤのポルトガル人町と日本人町

タヌシンガ・ベーカリーの店主の祖先が，日本人とポルトガル人の混血であったかどうか，その真実は定かではないが，実際にそのような背景を持つ人物が，タイの文化にポルトガル料理を導入したことが定説となっている。その人物の名前は，マリア・ギオマール・デ・ピーナ。日本人を母に，ポルトガル系ベンガル人を父に持つ女性である。

マリアが生きた時代のシャム王国はアユタヤ朝時代にあたり，大陸部東南アジア（現在のインドシナ半島からベンガル湾東岸まで）でも，最大の勢力を誇った国家であった。ポルトガル人たちは，マラッカの攻略（1511年）後，すぐさまアユタヤ朝に使節を送り，交易を始めた。アユタヤ朝のような広大な領域を支配する国家は，様々な商品が集積する土地であり，とくに大陸部東南アジアで産出される銀（タイ北部やビルマ産），鉛（タイ中部産），錫（マレー半島産）などの金属が豊富に取引されていた。16世紀，

日本に輸入された鉛の多くがタイ産であったことが，近年の研究で指摘されている。

16 世紀前半には，ポルトガル人商人がアユタヤを続々と訪れ，そこに定住して交易に従事し始めた。アユタヤでは中国産商品も豊富に取引されていたし，中国方面へ渡る船も見つけることができた。アユタヤは交易のために諸民族が行き交う，東南アジア随一の活気にあふれた港であった。また，ポルトガル人がもたらした鉄砲などの火器は，当時ビルマやカンボジアといった近隣諸国との戦争状態にあったアユタヤの国王の目に，非常に魅力的に映ったにちがいない。ポルトガル人は傭兵として，たびたびビルマとの戦争に駆り出されたが，相手方のビルマ軍の中にも，ポルトガル傭兵が混在していた。

16 世紀末には，アユタヤに日本人も住んでいたことが，諸文献から確認されるが，本格的に日本人町が発達したのは，やはり朱印船貿易が始まる江戸時代のことであっただろう。アユタヤの日本人町は，チャオプラヤ川沿いに，アユタヤ城壁の外の左岸に造られた。そして川を挟んで向かって右岸には，ポルトガル人の集住区「バン・ポルトガール」があった。このポルトガル人居住区にイエズス会の教会が建てられたが，そこに通う信者には，在住ポルトガル人やその家族（現地人）に限らず，1627 年の記録によると，400 名の日本人キリシタンの姿もあった。

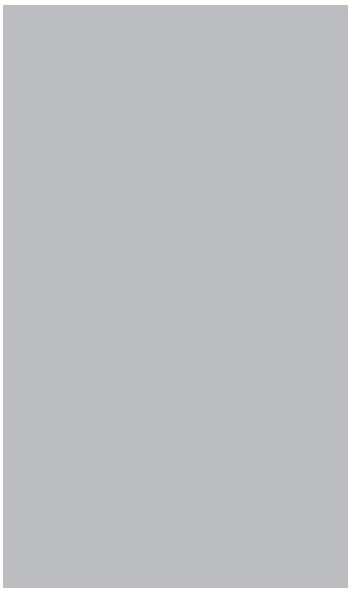
▲②向かい合うアユタヤの日本人町とポルトガル人町

キリシタンと東南アジア

江戸幕府の禁教令によって，主だった日本人キリシタンが，宣教師らと共にマカオ・マニラへと追放されたのは，慶長 19（1614）年のことである。この年に日本を出たキリシタンの数は，約 300 人程度という記録があるが，朱印船貿易そのものは，その後 30 年近く続いたので，信仰の自由を求める人々の中には，マカオや東南アジアの日本人町へと移住していくものがあったと考えられる。これらのアジアの港町に移住した日本人たちは，早晩混血化を経て，現地人に同化していったが，イエズス会士たちは，海外在住の日本人の信仰維持を名目に，東南アジアの港町における教会建設と布教活動を広げていったのであった。マリア・ギオマールの生年は 1664 年で，祖父母は，日本からアユタヤへ移住したキリシタンであったことが知られている。母親は山田ウルスラというアユタヤ育ちの日本人であったが，父親はポルトガル系ベンガル人であったという。

1682 年，マリアは 18 歳の時に，イギリス東インド会社の社員として 1675 年にアユタヤへやってきたギリシア人コンスタンティン・フォールコンと結婚した。それを機に，フォールコンはカトリックに改宗した。当時のアユタヤは，ナーラーイ王の治世下，比較的安定した国内状況を保っていたが，イギリス，オランダの東インド会社といったヨーロッパ勢力が進出し，それぞれが貿易独占を目論んでいた。当初はオランダ東インド会社に便宜を図ったナーラーイ王であったが，彼らの独占的かつ野心的な貿易方法を危険視し，華人船貿易の推奨に切り替えを図ろうとしていた。当初，イギリス側の人間であったフォールコンは，ナーラーイ王の宮廷で，外交・財務顧問としての地位を確立していった。アユタヤをめぐる西欧勢力の争いには，フランスの東インド会社も参入し，フランス側はフォールコンを抱え込むことで，アユタヤ交易への進出を狙っていた。フォールコンはフランスの軍事力を利用して，自らの勢力拡張を目論んだが，その目論見は，1688 年に起きたペートラチャー将軍による革命によって潰えた。フォールコンは殺害され，マリアはいったん全財産を剥奪された上で，幼い息子二人を抱えて奴隷の身分に落とされた。しかしながら，ペートラチャーの王位就任後，特赦を得て，その宮廷の料理人となり，最終的には宮廷料理長の職を得たといわれる。そして，彼女が伝えたのが，ポルトガル起源のクレオール料理であった。フォールコンやマリア・ギオマールの数奇に満ちた生涯はその後，アユタヤへ来航する西洋人の間で伝説となり，語り継がれていったのであろう。

日本からアユタヤへと，キリシタン禁令によって逃れた日本人の子孫が，ポルトガル文化を継承し，タイにポルトガル料理を導入したという物語は，たとえ伝説であっても，日本とアユタヤがキリシタンやポルトガル人を介して結ばれていたことを如実に物語るものとして興味深い。



▲③フォールコンの肖像

第一学習社

グローバル化と日本

16 世紀は，日本と東アジアを越えた世界が密接に繋がることになった最初の時代である。とりわけ，火器の大量生産・流通，それに必要な鉛，火薬の原料の輸入を契機とした対外交渉の活発化など，ポルトガル人の来航が果たした役割は少なくない。筆者は近年，ポルトガル・スペインを中心とした「南蛮」との交流によってこの時代の日本人の生活環境に生じた変化を，グローバルな視点から総体的に考えたいと考えている。美術・工芸の分野では，従来，「南蛮美術」と呼ばれてきた漆器や屏風，絵画などに，日本とヨーロッパの折衷的要素のみならず，当時ポルトガルやスペインが支配した，もしくは通商ルートを敷いた様々な地域（具体的には中南米やインドなど）の技術や美的価値観が融合していることが近年指摘されている。日本人にとっての直接の交渉相手はポルトガル人やスペイン人であったとしても，彼等がもたらす文化には，彼等が通ってきた様々なルートに起源を持つものが混在しているのである。

近年では，日本・アジア研究におけるヨーロッパ中心史観は批判と淘汰の対象となり，日本とアジアの古来からの繋がりを重視した歴史研究の傾向が顕著である。しかし，そのような研究動向には，少なからず現代の政治イデオロギー的なものが影響しており，日本にとって歴史的な繋がりがあった「世界」が，あたかも「アジア」に限定されるような，偏った世界観への閉じ込めの危険性が潜在することも意識される必要がある。例えば日本を含む東アジアのみを研究し，同時代の他の地域で生じていたことに全く関心を持たない研究者が，「グローバル」という言葉を便宜的に使っているのを見ると，やはり疑念を感じざるを得ない。

繰り返して言うが，16 世紀後半は，日本という地域が，本格的に東アジアを越えた世界へと繋がる時代であり，世界史的に見ればその時代の交易の活性化は，グローバル化の中に位置付けられる現象である。アジアの構成員としての日本の明確な位置付けは確かに大切ではある。しかし，世界市民としての将来の日本の若者の育成を考えた時に，世界には様々な文明，民族が存在し，どういった歴史的変遷があって，今現在我々が生きている「世界」が形成されているのか，そこに日本がどのように位置付けられるのかが理解され，将来一緒に働いたり，あるいは家庭を築いたりするかもしれない非日本人の相手が，どのような文化的背景を持つのかまで，漠然とでも意識できるような歴史教育が行われていくことを願ってやまない。

参考文献

- 石井米雄ほか編『岩波講座　東南アジア史』３巻，岩波書店，2001 年
- 岩生成一『南洋日本町の研究』岩波書店（新版），1996 年
- 岩生成一『新版　朱印船貿易史の研究』吉川弘文館，1985 年
- 岡美穂子『商人と宣教師　南蛮貿易の世界』東京大学出版会，2010 年
- 岡本良知『16 世紀日欧交通史の研究』原書房（増補改訂版），1974 年
- 株式会社福砂屋編『カステラ文化誌全書』平凡社，1995 年
- 平尾義光他編『大航海時代の日本と金属交易』思文閣出版，2014 年
- Smithies, Michael, *Three Military Accounts of the 1688 "Revolution" in Siam, Itineria Asiatica*, Orchid Press, 2002

特集❷

歴史教育にジェンダーの視点を生かす

野村　育世（私立高等学校・中学校教諭。日本中世史・女性史研究者）

1　古墳被葬者はヒゲもじゃの大男？

中学１年生に，古墳被葬者のイメージについて聞いてみた。「いかつい」「大きい」「ヒゲもじゃ」という声が上がった。王だからと言って体が大きいとは限らないだろう。そもそも，大型古墳に葬られた人の半分近くは女王だからヒゲはない。「えーっ」と元気な声が上がった[1]。しかし，この事実に教科書は全く触れていない。子どもたちはイラストやジオラマを見て，ヒゲもじゃの大男の王というステレオタイプが刷り込まれてしまう。

これまでの歴史教育は，ジェンダーや女性についてあまりにも無関心であった。近年になって，高校の日本史教科書に少しずつ女性やジェンダーを意識したものが現れてきた。例えば『高校日本史Ａ新訂版』（実教出版）には，全国の民権結社を示す地図「自由民権運動と民権結社」があり，女性たちの結社が緑の字で示してある（男性の結社は黒字）。自由民権運動における女性たちの存在が一目でわかり，それを赤やピンク以外の色で示したところに配慮が見られる。

しかし，女性やジェンダーへの配慮は，高校より中学，中学より小学校と，下に行くにしたがって貧困なものになる。

例えば，聖徳太子について，今の高校日本史教科書では，「敏達天皇の后であった推古天皇が新たに即位し，国際的緊張のもとで蘇我馬子や推古天皇の甥の厩戸王（聖徳太子）らが協力して国家組織の形成を進めた」（『詳説日本史』山川出版社），「推古天皇は，飛鳥に都をおき，厩戸皇子（聖徳太子）や大臣の蘇我馬子に政務を補佐させるいっぽう，仏教の興隆など，政治の改革をおこなった」（『高校日本史Ｂ』実教出版）のように，推古を主体的な統治者とする文が書かれているが，小中学校の場合は相も変わらず，推古天皇は女帝だから聖徳太子を摂政にして，聖徳太子が新しい政治をした，というように書かれている。せっかく高校教科書が変わっても，小中学校が変わらない限り，日本人の歴史認識は「推古天皇は女だから自分で政治ができず，聖徳太子を摂政にした」と刷り込まれるところから出発してしまうのである。

なぜ下の学年ほどお粗末であるのか。そもそも，歴史研究者の関心が，高校教育には向いても，小中学校にはあまり向いていないのである。小学校の教科書や副読本類，一般の児童書には，各時代の専門の研究者が直接関わっていないものが多く，新しい研究の成果が反映されにくいのである。

また，小中学校の教科書には，高校教科書にはない，各時代の様子を描いた復元イラストがあり，これに問題が多い。復元イラストには多数の人々が描かれているが，全体的に女性の姿が非常に少ない。参考にしたと思われる絵巻物に老若男女の人々が描かれていても，イラストには反映されていない。教科書イラストのジェンダーは，全面的に検証する必要がある。

2　女性は人間の７％か？

教科書に登場する人物に女性はどのくらいいるだろうか。私の手元にある中学歴史教科書では，女性人名は全人名の約７％である。人口の 50％が女性であることを考えれば，その少なさは衝撃的であるが，そもそも女性を載せようと思っていないようで，天武がいて持統がいない，聖武がいて光明がいない，人麻呂と憶良がいて額田王がいない…。

そして，実はこの７％という数値は，一般書の人物評伝シリーズ（日本史関連）における女性の割合とほぼ等しい。例えば，ミネルヴァ書房の日本評伝選では，現行の 173 巻中，女性の巻は 14 冊，８％である。また，山川出版社の日本史リブレット「人」では，予定されている 100 巻中９巻が女性を含む巻で９％である（ただし，このシリーズの特徴は，女性はほとんどが他の人物と一緒に１巻に収められていることである）。

つまり，中学教科書の女性割合５～ 10％は，現在の一般的な日本史叙述における女性割合をそのまま反映したものだと言える。

しかし，女性の割合は，中学教科書より，高校教科書の方がもっと少ない場合が多い。それは，高校になると，男性名をより詳しく，多数収録する一方で，なぜか女性名は増やさないからである。大学受験に対応する詳しい教科書でも，女性名は中学教科書程度の人数しか出てこない。そこには，一般に広く知られる小野小町も赤染衛門も阿仏尼も加賀千代女も岸田俊子も景山英子も高群逸枝も登場しないなど，極めてバランスが悪い。

いま，暗記科目と化した日本史の用語を制限すべきだという意見があるが，その場合でも女性の割合は増やさなければならない。女性が７％の歴史像は正しくない。

取り上げるべき人物がいないわけではない。例えば，日本初の出家者「司馬嶋（しばのしま）（善信尼）」を載せるのは，中学校教科書『ともに学ぶ人間の歴史』（学び舎）のみである。そもそも 538 年の「仏教公伝」で百済王から倭に贈られたのは，仏像と経というモノだけである。このとき出家したのがこの渡来人の少女たちであり，百済に留学し，比丘尼

となって，日本の仏教を創始した。「観勒」や「曇徴」と比べて不要な人物とは思えない。

最近，児童書やヤングアダルト向けの伝記シリーズに，新たな動きが出始めた。例えば，高校生向けの伝記シリーズ「ちくま評伝シリーズ＜ポルトレ＞」（筑摩書房，2014～2016年）では，

石井桃子／武満徹／インディラ・ガンディー／小泉八雲／やなせたかし／魯迅／マリ・キュリー／スチーブ・ジョブズ／フリーダ・カーロ／陳建民／オードリー・ヘップバーン／長谷川町子／本田宗一郎／黒沢明／ネルソン・マンデラ／マーガレット・サッチャー／アルベルト・アインシュタイン／藤子・F・不二雄／市川房枝／ココ・シャネル／岡本太郎／ワンガリ・マータイ／レイチェル・カーソン／ヘレン・ケラー／安藤百福

という多様な創造者たちが選ばれ，25人中12人が女性である。

また，『まんが世界の伝記「NEXT」』第1期（集英社，2015年）では，

オードリー・ヘプバーン／グレース・ケリー／サリバン先生／アンナ・パブロワ／エリザベス・ブラックウェル／マリア・フォン・トラップ／アメリア・イヤハート／ターシャ・テューダー／ダイアナ／エレノア・ルーズベルト／ハワード・カーター／キング牧師／ ロバート・キャパ／スティーブ・ジョブズ／諸葛孔明／新・坂本龍馬／伊能忠敬／宮沢賢治／与謝野晶子／新島八重／松下幸之助／安藤百福／小林一三

という人選で，23人中12名が女性である。同じく第２期（2016年）では，

ナイチンゲール／アンネ・フランク／ヘレン・ケラー／マザー・テレサ／エジソン／クララ・シューマン／マリー・キュリー／ モーツァルト／クレオパトラ／マリー・アントワネット

と，10人中８人までが女性である。

このように，21世紀に入って，伝記シリーズにも，ようやく新しい風が吹いてきたが，問題は日本史である。

例えば，現在も売られている『学研まんが人物日本史』シリーズ（学研，1997年）では，

聖徳太子／聖武天皇／源頼朝／北条時宗／足利尊氏／織田信長／豊臣秀吉／徳川家康／西郷隆盛／伊藤博文／平清盛／福沢諭吉／卑弥呼／紫式部／源義経／真田幸村／ヤマトタケルノミコト／藤原道長／天智天皇／足利義満／徳川家光／勝海舟／大久保利通／楠木正成

という100年も変わらないようなメンバーで，24人中女性は２人，8.3％である。こうした人選は現在でも変化がない。われわれ日本史研究者の怠慢でもあろう。

なお，子ども向けの歴史叙述を，漫画というメディアに安易に頼っているのも問題である。絵や台詞はジェンダーに配慮されているのか。そもそも漫画という表現は歴史叙述に適しているのか。やはり，歴史家は自らペンを取り，子どものための良質な文章を追求すべきだと私は思う。

3　ジェンダーとは何か

ところで，歴史にジェンダーの視点を導入するということは，単に女性の割合を増やせば済むわけではない。

ジェンダー gender は「性差」と訳されるが，もとはラテン諸語における男性名詞・女性名詞の区分を指す語である。生殖機能を中心とした身体的差異 sex と違って，ジェンダーは社会的に造られるものである。ただし，自然に思われる sex さえも，人為的な影響を受けていることは忘れてはならない。現在，ジェンダーの定義は，イギリスのスコットによる「身体的差異に意味を付与する知」と説明されることが多い[2]。

ジェンダーは，階級と同様に社会を分析する概念であり尺度である。これまで，女性史以外の歴史学では，階級には注目しても，ジェンダーを分析対象から外してきた。だが，社会にはジェンダーという重要な構成要素がある。各時代の政治権力にとっても，ジェンダーを如何に構築し，位置づけるかということは，極めて重要な課題であった。

4　ジェンダーで歴史を読む

ジェンダーで歴史を読むと，どのような歴史像が見えてくるのか。例を挙げてみよう。

まず，『魏志』倭人伝に，卑弥呼は「鬼道を事とし能く衆を惑わす」とある。ここから，教科書等には卑弥呼は「巫女」であると書かれている。また，「男弟あり，佐（たす）けて国を治む」とあることから，実際の政治は弟がやっていた，と解釈されてきた。

しかし，神との交信は古代の優れた王なら必須の能力であった。ワカタケル（倭王武）も，山で神と交信して人々から慕われ（『日本書紀』），また，政治は豪族のヲワケが「左（たす）け治めた」とある（「稲荷山古墳鉄剣銘」）。卑弥呼と同じなのだが，ワカタケルが「まじないによる政治」をしたとは書かれていないし，政治はヲワケがやっていたという説もない。ここには，女王に対するジェンダー的偏見が見られる[3]。

男尊女卑の観念のない日本の古代に，唐の律令が導入され，太政官制の主な役職は男性で占められた。この政治的な女性の排除は，その後のジェンダー関係を大きく決定づける。もちろん，女性を完全に排除することはできず，女性官僚は常に存在した[4]。

唐では女性に口分田は班給されなかったが，日本では女性にも面積を減らしつつ班給された。調庸の貢納物は共同体で生産され，布は女性労働で織られたが，それらは男の名で納税された。それは，反面，男性ばかりが重い税を負うジェンダーであることを意味した。戸籍に男を女と登録する偽籍は，男性側（男性を擁する共同体）からの，男女不平等な税負担に対する異議申し立てであると言えよう。

また，鎌倉幕府の御成敗式目に，「公家法では禁止されているが，武家の慣習だからこれでよいのだ」といった文

言があることは，多くの高校教科書に載せられている。しかし，式目のどの条文にこうした文言が付せられているのかは，これまで問題にされてこなかった。実は，こうした文言のある条文は次の３カ条，「女子に所領を譲った後で，不和になった場合，父母は所領を悔い返せる」「子どものない女性は養子を取って所領を譲与できる」「主人の違う下人同士の間に生まれた子どもは，男子なら父方，女子なら母方につけよ」で，全てジェンダー関連法なのである。このことから，鎌倉幕府が作ろうとした社会が公家社会と最も異なっていたのは，ジェンダーの在り方であったと言える[5]。

鎌倉時代の女性と言えば，北条政子が挙げられる。政子に関する教科書叙述は，近年，大きく変わり，小中学校の多くの教科書で，承久の乱に際して政子が御家人らを鼓舞した言葉がコラムの形で載せられるようになった。ただし，そうした姿は当時の武家における夫死後の後家の役割の一環として捉える必要があろう。さらに，鎌倉時代においては政子は明確に鎌倉幕府４代将軍として捉えられていたことを忘れてはならない。

さらに，江戸幕府は参勤交代を義務付け，大名の妻子に江戸住まいを強制した。ここで妻子は人質ということだが，中世の家から見れば，国元の統治から大名の妻を切り離したということである。末期養子などが問題になるのも近世ならではのことで，鎌倉時代なら，夫が相続人を決めずに死んでも後家が決定するので何の問題もなかった。江戸幕府の末期養子をめぐる政策は，中世の後家権を否定し，大名の家の自立性を否定した上に成立したものであったと考えられる。

ジェンダーの視点で歴史を探究すれば，新しい歴史の姿が見えてくる。

5　まとめ

以上をまとめると，本稿の主張は次の３点である。

まず，現段階の歴史教育があまりにも男性中心に偏っていてフェアとは言えず，女性が不可視化されているので，それを正す必要がある。それにはまず，教科書に女性を入れなければ始まらない。

次に，ジェンダーの視点は全体史を分析するためにあるのであって，女性史，ジェンダー史というものは，歴史の一分野ではない。ゆえに，授業においては，ときどき特別に女性史の話をするだけでは不十分である。各時代の単元ごとに，その時代の法慣習や政治におけるジェンダーの位置づけに言及しなければならない。教科書もそのように書かれることを望む。

その上で，ときどきは特別なプログラムを組んで，教科書ならばコラムや一章を設けるなどして，その時代を象徴する女性や，家族制度や婚姻制度について，あるいは「自由民権と女性」「女学生について」と言ったテーマを設けて，語ったらよいのではないだろうか。

1　大型古墳の被葬者内訳：男性単独 23.9％，女性単独 19.6％，男女ペア 19.6％。間壁葭子「婚姻の考古学」『考古学による日本歴史』15，雄山閣，1996 年
2　スコット『ジェンダーと歴史学』平凡社ライブラリー，2004 年
3　義江明子『つくられた卑弥呼―＜女＞の創出と国家』ちくま新書，2005 年
4　伊集院葉子『古代の女性官僚―女官の出世・結婚・引退』吉川弘文館，2014 年
5　野村育世『ジェンダーの中世社会史』同成社，2017 年

参考文献

・久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える　ジェンダーから見た日本史』大月書店，2015 年
・総合女性史研究会編『日本女性の歴史―性･愛･家族』『日本女性の歴史―女のはたらき』『日本女性の歴史―文化と思想』角川選書，1992 ～ 93 年
・総合女性史研究会編『史料にみる日本女性のあゆみ』吉川弘文館，2000 年
・長野ひろ子・姫岡とし子編著『歴史教育とジェンダー―教科書からサブカルチャーまで』青弓社，2011 年
・野村育世・関民子・早川紀代『絵本日本女性史』全４巻，大月書店，2010 年
・歴史教育者協議会編『学びあう女と男の日本史』青木書店，2001 年

第一学習社

特集 3

国際協力の現場から

独立行政法人 国際協力機構（JICA）で働く方々や青年海外協力隊に参加された経験がある方々にお話を伺いました。国際協力の最前線から，生の声をお届けします。

タンザニアの人々の生活を支えるインフラ開発

藤井　輝明 さん
（JICA タンザニア事務所）

タンザニアは日本ではあまり馴染みのない国の１つかもしれませんが，アフリカ最高峰のキリマンジャロ山や，ライオン・ゾウ・キリンなどの多様な野生動物が身近に見られる数々の国立公園を有しています。また美しいビーチリゾートなどもあり，欧米からの観光客が多い国として有名です。近年では，実質成長率７％程度の高い経済成長を遂げており，サブサハラアフリカ諸国の中でも注目されています。一方で，１人あたり GDP は 965 ドル（2014 年，日本は 36,298 ドル）と依然世界最貧国の１つであり，経済・社会インフラが不十分であるなど，さまざまな開発問題を抱えています。

金融業界での勤務を経て JICA へ入構し，2016 年９月からダルエスサラームにあるタンザニア事務所に赴任しています。インド洋に面するダルエスサラームはかつての首都であり，現在もタンザニア最大の商業都市として栄えています。国内で人口が最も多い都市でもあります（430 万人，2012 年）。

事務所ではインフラ開発を担当しています。JICA 本部やタンザニア政府，国際機関，コンサルタント，工事業者など関係者と協議しながら，タンザニアにおけるインフラ開発に関わる新規プロジェクトの形成・推進や既往プロジェクトの案件監理などを担っています。たとえば運輸交通分野では，タンザニア初の立体交差点を建設する無償事業の案件監理や，急激な都市化にともない交通渋滞が激しさを増すダルエスサラームにおける 2040 年を目標年次とした都市交通マスタープランの改訂作業などを担当しています。エネルギー分野では，急激な経済成長にともなう安定的な電力供給が課題となる中，送配電網の整備や，高効率な新規発電所の建設などを担当しています。JICA が提供できる技術協力と無償資金協力，有償資金協力（円借款）の３つのスキームを有効的に組み合わせ，タンザニアが抱える開発課題の解決に向けて日々試行錯誤しながら取り組んでいます。日本のコンサルタントや工事業者が主導して行う工事現場では，品質の高さはもちろんのこと，きめ細かいスケジュール管理や安全管理について「さすが日本」という評価をよく耳にします。日本人であれば当たり前として捉えられている，「納期（締切）を守る」「面談（約束）時間に遅れない」「整理整頓をしっかりする」ということは，タンザニアでは日本人から真似すべき美徳として考えられていることが多いです。

また日本ほど頻繁ではないものの，タンザニア西部では大きな地震が発生するため，緊急支援物資を支援する援助事業も担当しています。地震が発生する地域は，タンザニアの中でも特に道路などのインフラが未発達で貧しい地域であることが多いため，先方政府の要請に応じてテントやスリーピングパット，水袋などを支援しています。

◀▲地震発生後，日本の支援物資が使用されているかどうか，モニタリングを行う

休日は海辺に行って食事や読書をしたり，Ngoma（ンゴマ）と呼ばれるアフリカンドラムを習ったりしています。ダルエスサラームから飛行機で 20 分ほどのところにザンジバルという島があります。ザンジバルは，世界遺産に登録されている美しい街並みが有名なストーンタウンや，美しいビーチが有名で，ここで休みを過ごすこともあります。

◀ザンジバルにある有名なレストラン。満潮時にはボートで行く必要がある

小・中学生の頃から地理や世界史が好きで，海外へ漠然と興味を持っていました。大学時代にバックパッカーとして東南アジアや中近東などを旅したり，アメリカに留学する中で，海外で働きたいという想いを強くしていきました。もともと国際協力に関心はありましたが，新卒時には縁がありませんでした。しかし金融業界での業務経験も，仕事の専門性の観点だけではなく，社会人としての基本動作を学ぶことができたという意味で，今の仕事に何１つ無駄なくつながっていると感じています。

目標ややりたいことはすぐに形にならないことの方が多いと思います。けれど思いを持ち続け常にそれに向けて努力するとともに，目の前の課題も疎かにせずに取り組むことで，少しずつ想いが形に近づくはずです。高校生のみなさんが今有している想いも，ぜひ大切に持ち続けてほしいと思っています。

ヨルダン UNRWA 校での教師経験を通して

高橋　舞 先生
派遣先：ヨルダン（札幌市立真栄中学校　保健体育科教諭）

2014 年６月から 2016 年３月までの１年９か月間，ヨルダンの首都アンマンから 40km ほど南に位置する都市，マダバに青年海外協力隊として赴任しました。

高校生の頃に青年海外協力隊の存在を知り，「いつか自分も世界に飛び出し，挑戦してみたい」という想いを持つようになりました。しかし，目の前の現実に精一杯だったり，他に優先すべきことがあったりなど，なかなか実現することができませんでした。教員として５年ほど勤めた頃，「今こそ，自分の持っているスキルを活かして，途上国の教育現場に何か貢献してみたい。そして自分自身が広い世界を知ることで，大きく成長したい」と強く思うようになり，協力隊を志しました。現職参加制度を利用し，教員としての身分を残したまま，協力隊に参加しました。

ヨルダンでは，長年居住しているパレスチナ難民のために UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）が運営する小中学校で，カウンターパート（協働相手）である現地教師の体育の授業のサポートを行いつつ，授業内容や指導方法改善のための支援を行いました。ヨルダンには，公立学校，私立学校，UNRWA 校があるのですが，UNRWA 校は慢性的な予算不足により体育・美術・音楽の選任教師が不足しており，情操教育や実技教科が軽視されて授業が行われていない学校も数多くあります。私が赴任した学校には現地の体育教師がいたので，指導内容や方法の見直しを行うとともに，体育の授業を通して子どもたちの心を育てることに重点をおいて活動しました。また，定期的にヨルダン国内の意欲的な体育教師がいる UNRWA 校に巡回指導を行い，年に２度，それらの学校を集めてスポーツイベント（長縄跳びやポートボールの大会）を開催しました。

◀校庭での小学５年生の体育の授業

ヨルダンでの活動は一筋縄ではいかず，日本の常識は世界の非常識なのかとさえ感じたこともありました。体育の授業は校舎の中央にあるコンクリートでできた狭い校庭で行うのですが，カウンターパートは暑すぎても寒すぎても，何かにつけて授業をなくしたがりますし，体育の授業で生徒が声を出すとうるさいと迷惑がる同僚もいました。また，宗教上の理由から女子が体育の授業を受けることを嫌う父親がいて体育の授業を受けられない子がいたり，そもそも大人たちのほとんどが体育の授業を受けたことがありませんでした。このような状況の中で，体育という教科の魅力や必要性をいかに伝えていけばよいのか，日々模索していました。体育だけでなく，情操教育が子どもたちの心を育てるのに重要な役割を担っていると感じ，美術や音楽の授業も進んで試みていました。また，生徒はゴミをどこにでも捨ててしまったり，順番を守れなかったりするなど，モラルやマナーの面で日本との違いに苦労することもありました。現地の現状を踏まえつつも，教育活動全体で子どもたちを育てていく日本の教育の要素も少しずつ紹介していき，同僚に理解を求めていくことに努めました。

一方で，ヨルダンではおおらかな雰囲気の中でのびのびと教育を行っていると感じました。授業中の教師からの発問にはほとんどの生徒が手を挙げて発表しようとしますし，中高生でも主体的に授業を受けている姿勢が見られました。また，UNRWA 校では小学１年生から英語教育が行われており，中学生くらいになると流暢に英語を話せる子もいますし，失敗を恐れずに積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする子どもたちもたくさんいました。

◀子どもたちは日本の文化に興味津々。折り紙も上手

日本に届くイスラームの情報が非常に限られているということもあり，赴任前は「中東＝危険」「イスラームは過激」というイメージがやはり心のどこかにありました。しかしそれは一部分であり，中東すべてがそんなわけではないことを知りました。ヨルダンは治安がよく，身の危険を感じることはありませんでした。人と人とのつながりが深く，目があえば挨拶を交わし，困ったことがあるとみんなで助け合うといった，イスラームの教えのもとに成り立つアラブ文化の温かさに安心感を持って過ごす日々でした。また，イスラームの女性は窮屈そうだと勝手に思っていましたが，実際はヒジャブ（ヘジャブ，頭に巻く布）でのオシャレやメイクも思いきり楽しんでいますし，彼女たちの中には「女性は大切にされている」という想いがあるため，宗教を窮屈に思っているように感じませんでした。

教育現場に復帰した今，私ができることは自分が見たことや触れたことを多くの生徒たちに伝えることだと思っています。私の体験談をきっかけに，遠く離れた世界のどこかで起こっているニュースに興味を持って目を向ける生徒たちが増えることを期待しています。高校生のみなさんには，日本にいながらに世界中の情報が入る便利な世の中だからこそ，広い世界に目を向けてたくさんのことを知ろうとし，いずれは自分自身で世界を見て，自分に何ができるのかを考えて羽ばたいていってほしいと願っています。

それでしあわせになれますか？

派遣先：バングラデシュ

山本　恭平 さん
（在インド大使館
外務省在外公館専門調査員）

「世界のどこかで自分より苦しい思いをしているのに，それを放っておいて自分はしあわせになれますか？」

ほとんどの人は笑うでしょうが，自分を開発の世界に駆り立てた問いはこれです。よくある話ですが，マザー・テレサやムハマド・ユヌスに非常に大きな影響を受けました。

大学時代に１年の休学をもらってウガンダのマイクロクレジット機関でインターンシップをしている時，マラリアにかかって飛び込んだ（無料で治療をしてくれるが設備や対応が悪く，場合によっては賄賂などを渡さないといっこうに治療が受けられない）公立病院で目の当たりにした多くの幼い命が消えゆく光景が，まぶたにこびりついて離れません。永遠とも感じられる待ち時間に耐えきれず，お金を出せばすぐに治療してくれる私立クリニックに逃げ込みましたが，あの子たちはどうなったのでしょう。

このような体験がもととなり，知人の紹介もあって私は開発における支援者と被支援者の距離が極めて近く，貧困が手の届く距離に潜む，バングラデシュの BRAC 大学院に入学を決めました。そして，そこで学んだ開発の知識を実践に活かし，社会のリーダーとして活躍する土台をつくり上げていきたいと思い，当時の研究内容に近い協力隊の職種に応募しました。

2013 年３月から 2015 年３月までの２年間，バングラデシュのジョショール県庁に村落開発（現コミュニティ開発）隊員として従事しました。当時は，政府の開発事業が住民に及ぼす影響とそれを軽減させる方法を研究しており，村落隊員として従事した職務は地方開発会議の実施促進と開発事業のモニタリングでした。地方開発会議は開発資金の使い道を決定する材料となる重要なものであり，まさに地域住民の生活を大きく左右するものです。

◀村にて開発事業の実態調査を行っている様子

▶地方開発会議で発言をしている様子

私は協力隊の前後含めて計５年間ほどバングラデシュで生活しました。（最近はだいぶ変わってきましたが）ほとんどのことが交渉で決まるこの国で，買い物１つをとっても戦いです。どこに行っても人がごった返すバザールで人をかき分けながら進み，マンゴーの質に一通り文句を言った後，数分間にわたり値段交渉を行い，やっと品物が手に入るのです。お察しの通り，私が従事していた開発事業の話となれば，より大きなお金が絡むため，話がめちゃめちゃこじれるし汚職もひどい。カウンターパートや地方自治体のリーダーたちとしょっちゅうもめてはやめたくなったりもします。それでも助けてくれるカウンターパートや JICA 事務所の人たちがいたおかげで，なんとか自分が企画していた研修事業を完遂することができました。これはスポーツでチーム一丸となって取り組み，勝利をつかんだ時の感動によく似ています。

振り返ってみると，この感覚の原点は中学校の部活動にさかのぼります。文字通り，朝から晩までテニスボールを追っかけていた時期です。試合に勝ってはチームみんなで抱き合い，負けては涙を流し，部活動にすべてを捧げていました。社会に出てからこういう体験をできる機会は必ずしも多くありませんが，このような観点から見ても協力隊に参加した経験は非常に貴重なものであったと思います。また，中学校の部活動での体験があるからこそ，協力隊時代の生活を充実したものにできたと思っています。

協力隊の経験は私の軸を形成する一要素となっていることは間違いありません。地方行政というニッチな分野において，私ほどの年齢の人間がこれほど現地に密着した経験を積める機会は協力隊以外には希有です。これは専門家や役人という立場では決して体験することができないものです。ボランティアとはいえ JICA の事業の末端に位置する立場であることから，（バングラデシュの場合は）現地政府関係者へのアクセスがしやすいことはとても都合がよいことでした。それでありながら，現地の生活に長期間にわたって溶け込めることから，たった数日間の事業視察などでは決して目にすることができない現実が見えてきます。

この体験は現在の職務に取り組む上でも非常に役に立っており，ODA 事業に携わっていく上で「日本のやりたいこと」，「相手政府の希望」，「現地住民（裨益者）の希望」など多角的な視点から物事を考察できるようになりました。特に，現地住民の「思い」というものを想像する上で協力隊の活動は必要不可欠なものであると確信しています。

■協力隊に応募を考えておられる方へ■

「協力隊は自分のキャリアや人生においてどういう位置づけにあるのか？」これをよく考えた上で応募すると２年間という限られた時間を有効に活用することができると思います。また，協力隊は名称的にはボランティアですが，実際には税金より手当てをもらって活動していることも忘れないでほしいと思います。この２つをしっかり自覚できていれば派遣先とあなたの双方にとって，より充実した２年間を送ることができると信じています。

JICA の職員の方に聞きました

現在 JICA 本部で働くお二方に，仕事の内容や国際協力の仕事を志したきっかけなどを伺いました。

話を伺った方
八星　真里子 さん
　広報室　地球ひろば推進課
徳田　由美 さん
　人間開発部　基礎教育グループ

■どのような仕事をされているのですか？

八星さん：JICA では，日本の教育現場で世界の現状や開発途上国が抱える課題への理解を深めてもらうため，国際理解教育や開発教育の実施の支援を行っており，そのための教材やプログラムの企画･実施をしています。最近では，ニュースや途上国の映像をまとめ，授業で使える映像教材「難民」「イスラーム」「教育」「国際協力」を作成したり，教育業界関係者に JICA の国際協力支援事業を伝えるセミナーを開催したりしています。

徳田さん：開発途上国の基礎教育の課題を現地調査などで把握・分析し，その情報に基づいて技術協力プロジェクトや無償資金協力の案件を途上国側政府と合意しながら形成しています。プロジェクト開始後は，計画に基づいて進捗しているかモニタリングし，プロジェクト活動による成果が発現しているかや，プロジェクトで目指す目標が達成しているかなどを評価しています。現在は，JICA 本部のある東京をベースとして，年間４～５回（２～３か月に１回），開発途上国（現在の担当国は，ミャンマー・ラオス・インドネシア・ホンジュラスなど）に出張し，その国でのプロジェクトの案件形成やモニタリングなどを行っています。

■仕事をされる中で，面白味を感じる時や大変だと思う時はどのような時ですか？

八星さん：学びに対して真剣な方々に出会い，ともに教育について考えていけることです。JICA に勤務する前は非常勤教師として中学校に勤務していたのですが，そもそも教師になろうと思ったのは，青年海外協力隊として派遣されたニカラグアで「分かった！」「できるようになった！」と目を輝かせる子どもたちを目にしたからです。同じような想いを胸に教育に取り組んでいらっしゃる様々な方々と，それぞれの特性やリソースをどう活かし合えるかを話し合い，形にしていくことはとても面白いです。

徳田さん：担当する開発途上国に出張する際には，必ず教育現場を訪問し，教育現場の裨益者の声を聞くことを大切にしています。たとえばエチオピアでは，ある農村部僻地の村にある JICA が支援した学校で学ぶ，小学校の適齢期を過ぎた女子生徒から「この学校が私の村にできなければ，結婚するしか人生の選択肢がなかったが，今は進学という夢がある」と聞くことができ，大変嬉しく思いました。インフラが整わない国への出張は大変ですが（たとえばタジキスタンでは，真冬に宿泊先ホテルの暖房が止まり，日本から持参した洋服を重ね着して暖を取って寝たことがあります），大変な国であればこそ，基礎教育の必要性も高いので，やりがいがある仕事だと感じています。

◀ラオスの首都ビエンチャン郊外の小学校に，算数教育の現状を聞き取り調査した際に撮影した集合写真（徳田さん）

■国際協力の仕事を志したきっかけは何ですか？学生時代から国際協力の仕事を目指していたのでしょうか？

八星さん：高校時代にブラジルに留学し，大学時代はバックパック旅行を楽しみましたが，海外に面白味を感じつつも仕事については言葉が通じる日本がよいと思い，国際協力の仕事は特に考えたことがありませんでした。民間のコンサルタント会社に就職しましたが，すでに豊かな日本の経営者支援より，もっと困っている人の力になることに自分の 20 代を注ぎたいと思い，ふと見つけたポスターがきっかけで青年海外協力隊に応募しました。協力隊の経験を経て教師を志し，現在の仕事に至っています。

徳田さん：学生時代は「海外で仕事を持って暮らしてみたい」という程度で，国際協力に強い熱意があったわけではありませんでした。大学卒業後，シンガポールの日本人学校で小学校教師をしましたが，夏休みなどを利用して東南アジアの近隣国を訪問した際，ストリートチルドレンなど学校に通えない子どもたちがいる現状を目の当たりにしました。「このまま日本の子どもたちを教えるだけでよいのか」「自分も開発途上国の教育開発に携わりたい」という想いが強くなり，国際協力の仕事を志しました。小学校教師をやめてロンドン大学の大学院で教育と国際開発の修士号を取得した後，国際協力の仕事に転職しました。

■八星さんは青年海外協力隊の経験があるとのことですが，どの国でどのような活動をされていたのですか？

八星さん：2007 年６月から 2009 年６月の２年間，ニカラグアにあるヌエバギネア市保健センターで，若年妊娠・性感染症予防のための性教育（健康教育）を中心とした青少年開発業務を担当していました。ヌエバギネアは首都マナグアから南東に約 300km に位置し，車で７時間かかります。隊員からは「陸の孤島」とも呼ばれていました。協力隊の活動としては，自己肯定感を持ち，自身の人生設計をするための自己啓発授業や，自分の住みたい街を考えてその実現のために取り組む環境教育を行いました。また，ほ

かの隊員の力を借りて，学校教師向けに算数の授業改善セミナーや，医療従事者向けに日本のサービス精神（ホスピタリティ）をロールプレイを通じて学ぶセミナーを実施しました。授業を行うにしても，停電があったり，教材がなかったりとさまざまな困難がありましたが，簡単にできないと言ってしまうのではなく，電気がなくても使える紙芝居を用意したり，先生が読むだけで形になる教材を作成したりなど，いろいろな方法をチャレンジしました。

◀ニカラグアでの環境授業。住みたい街づくりのためにゴミ拾いをしているところ（八星さん）

▶小学校教員隊員の力を借りて，現地教員向けに授業改善セミナーを開催（八星さん）

■青年海外協力隊の派遣中，印象に残っていることはありますか？

八星さん：当初，隊員活動としてニカラグアで日本文化の紹介や日本語教室をすることに否定的でした。彼らのほとんどが日本に来れないのに，日本語や日本文化を学ぶ暇があったら，手先を器用にさせる図画工作などの実践的な授業の方が有用だと思っていたからです。しかし，何かの折に教えた「おはよう」という言葉を，子どもたちがずっと大事に覚えていて，私が家の前を通るたびに「おはよう！」と叫び，母親に「日本語で朝の挨拶はおはようっていうんだよ！」と自慢げに話す様子を見て，自分が無意味に思っていたことも，彼らにとっては周囲が知らない新しい知識を得た非常に喜ばしい経験なのだと気づきました。その後，「多様な価値観を知る」というコンセプトで日本文化を紹介するイベントなどを行い，好評を得ました。

■青年海外協力隊の経験を通して，ご自身が変わった，成長したと実感されていることはありますか？

八星さん：「誰かのためになりたい」という想いで協力隊に参加しましたが，実際のところ，現地の人々に助けられてさまざまな活動に挑戦できた２年間でした。「（日本で）このやり方が正しい」と思っていたことが，ところ変われば決して正しくはなく，現場の状況をよく観察して人々と話し合いながら判断し，動いていくことが重要であると強く実感しました。また，協力隊として「教える」経験をしなければ，現在の仕事にも就いていなかったと思います。

■国際協力のプロとして，教育現場に望むことはありますか？

八星さん：新しい学習指導要領では「グローバル化する国際社会に主体的に生きる」力が示唆されました。この力の育成に，私たちが開発途上国の現場で培ってきた国際協力の経験が活用いただけるのでは，と思っています。たとえば，お近くの JICA 国内拠点や国際協力推進員にご相談いただければ，学校で開発途上国の生活や国際協力現場を語る出前講座や，情報提供にご協力いたします。また，JICA 地球ひろばの持つ「先生のお役立ちサイト（https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html）」では，国際社会の課題を扱った教材や，国際理解教育の授業実践事例を掲載しています。私たちの知見が日本の教育現場で活用いただけることは大歓迎ですので，どうぞお気軽にご連絡ください。

徳田さん：高校においても，ぜひ開発途上国での現状を題材や教材にした授業を展開していただきたいと思います。日々の新聞やニュースなどを活用して開発途上国の現状や課題が，日本の高校生の身近な話題とどのように繋がっているか解説していただけると，高校生にとっても理解が進みやすいと思います。また子どもは，同世代の世界の子どもがどのような状況にあるのかという話や，同じ日本の高校生が開発途上国の問題解決に向けて具体的にアクションを起こしているという話題に対して関心を持ちやすく，共感も得られやすいため，世界の高校生の置かれている状況や日本の高校生の国際協力への取り組みを紹介するとよいかと思います。たとえば，認定NPO法人フリー・チルドレン・ジャパンのサイト（http://www.ftcj.com/）では，日本の中高生による国際協力活動の一例が紹介されています。

■最後に，高校生へのアドバイスをお願いします。

八星さん：私自身，高校時代に特に夢はなく，初めて夢を描けたのは協力隊の経験を通じ「教師になりたい」と思った時でした。一度は教師になるも，その後夢が変わり，今は現場から離れて教育に取り組んでいますが，夢が見つからぬまま働いていた時間も，教員免許取得の勉強に集中していた時間も無駄とは思いません。懸命に取り組んだ経験は，今の仕事に生きています。ですので夢が見つかった時，それに向かって走り出せるよう，スポーツ，音楽，趣味…何でも「上達したい！」と思えることに打ち込み，失敗と成功を重ねることをおすすめします。

徳田さん：大学受験に関係のない教科でもきちんと学んでおくことで，その後大学生や社会人になった時の教養となるので，高校時代には幅広く学ぶことをおすすめします。また，部活動や学校の行事に一生懸命取り組むことで，大変よい思い出になり，それがその後の人生の糧となりますので，勉強以外の活動にも積極的に取り組んでいただければと思います。

フォトギャラリー

▲ヨルダンのアラブ料理　大皿料理をみんなで食べるのがアラブ文化。アラブ料理は炊き込みごはんなどが多い。

▲ヨルダンの女性たちと　日が陰った時間から外で女子会。

▲インドから運ばれてくる牛（バングラデシュ）　バングラデシュには，インドから国境を越えて牛が運ばれてくる。トラックでドナドナのように大量に運ばれてくる牛は，かわいそうだが，見物である。

▲タンザニア北西部にあるキゴマの漁村　タンガニーカ湖で採れる魚の干物がおいしい。

▲ニカラグアの住居　農村部の家は平屋で，天井や壁紙がない簡易な造りであることが多い。安穏としているため，戸締りがゆるいこともしばしば。

▲独立記念日を祝う生徒たち（ニカラグア）　9月15日の独立記念日には，全学校の生徒たちが衣装に着替え，街をバンド行進して祝う。

解説

2017年に登録された世界遺産

2017年7月，ポーランドのクラクフで第41回世界遺産委員会が開催され，「「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」を含む21件（文化遺産18件，自然遺産3件）が新たに世界遺産リストに登録された。世界遺産総数は1073件となった（文化遺産832件，自然遺産206件，複合遺産35件）。ここでは，世界遺産のうち新たに登録された文化遺産18件について概要をまとめた。

1．「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（日本，福岡県）

日本では21件目の世界遺産登録となる。沖ノ島は，宗像市から約60km離れた，玄界灘に浮かぶ周囲約4kmの島である。中国や朝鮮半島への航路上に位置することから，4～9世紀にわたって航海の安全と交流の成就を祈る祭祀が行われ，その跡が手つかずのまま現代まで残されている。シルク＝ロードを通って運ばれてきたガラス製品や，銅鏡・朝鮮半島製の馬具など約8万点もの宝物（国宝）が出土しており，「海の正倉院」とも呼ばれる。

今回登録されたのは，沖ノ島及び島に付随する3岩礁（総称して「宗像大社沖津宮」）の計4資産と，宗像市から約10km離れた大島にある「中津宮」などの2資産，九州本土にある「辺津宮」などの2資産の計8件からなる遺産群である。沖ノ島・大島・九州本土それぞれの宮には，三柱の女神が祀られており，広大な信仰空間が形成されている。航海安全を祈願する信仰が古代から現在まで断絶なく続いていることなどが評価され，登録に至った。

2．歴史的共同租界，鼓浪嶼（コロンス島）（中国）

福建省厦門市にある小さな島。1903年に共同租界に定められて以降，同島は外国人居留地として発展し，中国と西洋の文化が混じり合った独自の街並みが形成された。17世紀，明の復興を目指し，清への抵抗運動を続けた鄭成功がその拠点を一時置いたことでも知られている。

3．古代イーシャナプラの考古遺跡，サンボール＝プレイ＝クック寺院地帯（カンボジア）

カンボジアのほぼ中央に位置し，6～7世紀に繁栄した真臘の都イーシャナプラの都市遺跡群とされる。八角形の祠堂や入口に2体の獅子像が配置されたプラサット＝タオなど，大小200以上の建造物からなる。これらの建築様式は，のちのアンコール時代に特徴的なクメール様式の土台となった。また，イーシャナプラは，唐僧玄奘の旅行記『大唐西域記』に「伊賞那補羅国」という国名で登場し，その繁栄ぶりが国外に広く知られていたようすが記されている。

4．アフマダーバードの歴史都市（インド）

インド西部グジャラート州最大の都市。15世紀に独立したイスラーム王朝のアフマド＝シャーヒー朝の君主，アフマド＝シャー1世によって建設された。市名は彼の名にちなむ。多様な宗教の施設が混在しており，イスラームのモスクや，ヒンドゥー教・ジャイナ教の寺院などがある。近年では，ガンディーによるインド独立運動の拠点として，また，近代建築の巨匠ル＝コルビュジエの関連建築物が存在することでもその名が知られている。

5．ヤズドの歴史都市（イラン）

イラン中央部の都市で，シルク＝ロードの交易地として古くから隊商交易などで繁栄したほか，ゾロアスター教の聖地としても知られる。周囲を砂漠に囲まれ，年間の降水量が非常に少ないことから，山麓の水源から地下を通って水を供給するカナートが発達した。

6．ヘブロン／アル＝ハリール旧市街（パレスチナ自治区）

ヘブロン（アル＝ハリール）は，ヨルダン川西岸地区南端の都市。聖書に登場する預言者アブラハム（イブラーヒーム）の墓があるとされることから，ユダヤ教・キリスト教・イスラームの共通の聖地である。同地についてパレスチナ自治政府は，パレスチナ人とユダヤ人入植者の対立が絶えないために調査・保全がままならないとして，世界遺産，それも「危機遺産」への登録を強く求めてきた。世界遺産委員会において，パレスチナ自治政府の緊急申請によって登録の是非が問われることになり，事前評価を担うＩＣＯＭＯＳ（国際記念物遺跡会議）は緊急性がないこと，現地調査の未実行を理由に評価を保留にしたが，例外的な秘密投票という形を経て世界遺産（同時に「危機遺産」）登録が果たされた。これに対しイスラエルは，政治利用であるとして強く反発，国連への拠出金を減らす意志を表明した。

7．アフロディシアス（トルコ）

トルコ南西部に位置する古代ギリシア・ローマ時代の都市で，市名は愛と美の女神アフロディテにちなむ。都市には女神を祀る神殿，数万人を収容できるローマ時代の競技場，公衆浴場，アゴラなどがある。大理石の産地として繁栄し，彫刻などの美術品が数多く残されている。

8．スヴィヤシスク島の生神女就寝大聖堂・修道院（ロシア，タタールスタン共和国）

スヴィヤシスク島は，ヴォルガ・ウラル地方の都市カザンの西，ヴォルガ川の中にある島。16世紀にモスクワ大公国のイヴァン4世がカザン＝ハン国への進出の足掛かりとした場所で，のちにこの地域ではロシア正教への改宗が進められた。近年，現存する古くからの街並みや聖堂内に保存されている16世紀当時のフレスコ画がロシア正教施設の遺産として注目され，同島の再開発事業が行われている。しかし，歴史的にこの地域はムスリムが人口の多数を占めていることから，ロシアによるカザン征服を象徴するものだとして，ロシア正教の聖地を復興させることに対する批判の声もある。

9．タルノフスキェ＝グルィの鉛・銀・亜鉛鉱山とその地下水管理システム（ポーランド）

ポーランド南部に位置する，地下資源の採掘を目的とする施設の遺構群。蒸気機関を使って地下水を汲み上げることで給排水を行うシステムなど，計 28 の鉱山関連地及び物件によって構成されている。日本の世界遺産である島根県の「石見銀山遺跡とその文化的景観」とは，地下資源の採掘に関する産業遺産という共通点から，共同研究・調査などの相互連携を期待する声もある。

10．16 ～ 17 世紀におけるヴェネツィア共和国の防衛施設群：スタート＝ダ＝テーラー西スタート＝ダ＝マール（イタリア・クロアティア・モンテネグロ）

イタリアのロンバルディアからアドリア海沿岸にかけて点在する，ヴェネツィア共和国が築いた 15 件の軍事防衛施設を構成資産とする。城壁・城塞・地下トンネルなどが 1,000km 以上にわたる広大な範囲内で各地に建設された。

11．シュヴァーベン＝ジュラにおける洞窟群と氷河期の芸術（ドイツ）

４万３千年前にヨーロッパに到達した現生人類が築いた，ドイツ南部のシュヴァーベン＝ジュラ山脈の６つの洞窟を中心とする遺跡群。出土した人形や楽器などの芸術作品は，世界最古の創作物として注目されている。

12．イングランドの湖水地方（イギリス）

イングランド北西部の「湖水地方」は，氷河期に形成された地形で，渓谷沿いに美しい湖が点在している。イングランド最大の自然湖ウィンダミアをはじめとする多くの自然景観と，地形を生かして形成された農村や庭園とが融合してできた風景は，多くの芸術家に影響を与えてきた。ピーターラビットの作者ポターもこの景観を愛した一人で，自然景観の維持・保護を目的とするナショナル＝トラスト運動に共感し，湖水地方の景観保護に尽力した。

13．南グリーンランド：氷帽周辺部におけるノース人とイヌイットの農業景観（デンマーク）

グリーンランド南部に位置する同地域２件目の世界遺産。ヴァイキングの住居や農地の跡，イヌイットの遺跡などで構成され，教会や埋葬地・灌漑設備を擁する５つの集落が含まれる。

14．アフリカの近代都市アスマラ（エリトリア）

エリトリア初の世界遺産。エリトリアの首都で，標高 2,350 mに位置し，古くから商業の中心地として栄えていたが，19 世紀のイタリアの進出を機に軍事基地が建設されて以降，「第二のローマ」として繁栄した。街には 20 世紀前半のイタリア風アール＝デコ建築が軒を連ねている。

15．コマニの文化的景観（南アフリカ共和国）

南アフリカ共和国北部のボツワナ・ナミビア両国との国境地域，カラハリ＝ゲムズボック国立公園を構成資産とする。石器時代以来，現在に至るまで厳しい自然環境で狩猟・植物採集を生業として暮らしてきたサン人の習慣や環境に根差した世界観から形成される文化的景観が広がる。彼らによるものとされるアフリカ南部の岩面壁画には，野生動物などの姿が色鮮やかに描かれ，彼らが古くからもっていた文化の独自性を知ることができる。

16．ンバンザ＝コンゴ，コンゴ王国の首都跡（アンゴラ）

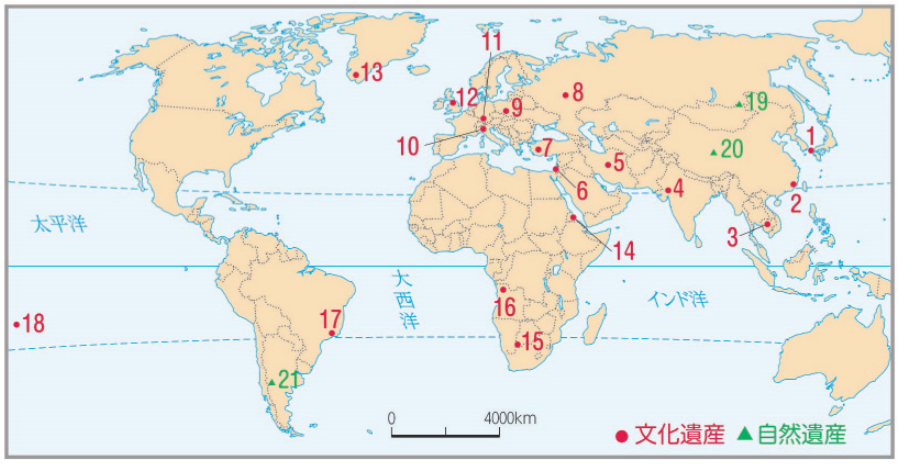
アンゴラ初の世界遺産。ンバンザ＝コンゴは，14 世紀にアフリカ中部におこったコンゴ王国の都。コンゴ王国は，15 世紀のポルトガル人の来訪を機に，同国との交易を開始したほか，西欧の技術や制度を受容した。王国は奴隷貿易の中心地となった。

17．ヴァロンゴ埠頭考古遺跡（ブラジル）

リオデジャネイロに位置する港湾施設の遺構。1811 年に建設が着手されると，奴隷貿易の南米における窓口の一つとなり，アフリカから連行されてきた奴隷約 90 万人がこの地から上陸した。人類史に暗い影を落とす奴隷貿易と奴隷労働の実態を後世に伝える極めて重要な遺跡である。

18．タプタプアテア（フランス領ポリネシア）

ライアテア島南東部のタプタプアテアにある野外宗教施設「マラエ」が登録対象となった。「マラエ」とは，神や死亡した部族長の霊魂を祀った祭壇のことで，ポリネシア各地に多数現存し，地域ごとに形態が異なる。このタプタプアテアの「マラエ」は，タヒチの神オロを祀ったもので石造りのピラミッド型をしており，同地域最大級を誇る。



◀図１　2017 年に登録された世界遺産

19 ～ 21 は以下の自然遺産。

19．ダウリヤの景観群（ロシア・モンゴル）

20．青海可可西里（チンハイホフシル）（中国）

21．ロス＝アレルセス国立公園（アルゼンチン）

＊地図中の数字は，解説で示した番号に対応している。

第一学習社

地歴　生徒用副教材のご案内

世界史図表

グローバルワイド 最新世界史図表

初訂版

●自学自習・入試対策も万全な充実タイプのビジュアル教材

AB 判 376 頁
定価：本体価格 880 円＋税

付属品 ◆別冊「世界史図表白地図ワーク」(B5 判 32 頁)
解答 (B5 判 1 頁)
◆「世界史図表DVD - ROM」（教師用）

21 世紀の歴史図鑑 ダイアローグ 世界史図表

新版初訂

●高校世界史の基本的な内容をおさえた理解しやすい資料集

AB 判 256 頁
定価：本体価格 820 円＋税

付属品 ◆別冊「世界史図表白地図ワーク」(B5 判 32 頁)
解答 (B5 判 1 頁)
◆「世界史図表DVD - ROM」（教師用）

WEB サポート

世界史図表 Support Box

●『グローバルワイド最新世界史図表』・『ダイアローグ世界史図表』の読者用サイトです。
●世界史に関連する書籍や映画などの紹介や，世界史学習に役立つリンク集，センター試験解説，最新の世界史情勢などを配信。生徒の自学自習用に，また，授業での調べ学習や先生の授業準備にもご活用いただけます。

最新地理図表 GEO サポート BOX

●『最新地理図表 GEO』の読者用サイトです。
●巻末統計の増補版など，生徒の自学自習に役立つコンテンツを収録。

日本史図表

最新日本史図表

初訂版

●日本史学習に必要な資料，役立つ情報が満載のビジュアル教材

AB 判 384 頁
定価：本体価格 870 円＋税

付属品 ◆別冊「日本史重要史料 185」（AB 判 48 頁）
◆「日本史DVD - ROM」（教師用）

日本史史料集

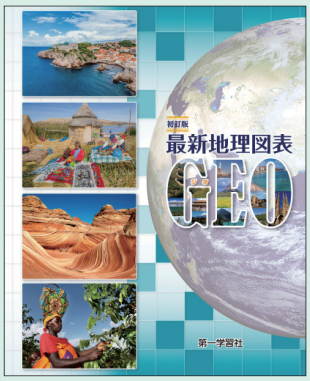
改訂版　**詳録新日本史史料集成**
A5 判 500 頁　定価：本体価格 810 円＋税

改訂版　**精選日本史史料集**
B5 判 160 頁　定価：本体価格 638 円＋税

付属品 「日本史DVD - ROM」（教師用）

＊ DVD-ROM は『詳録新日本史史料集成』,『精選日本史資料集』ともに付属します。

地理図表



最新地理図表 GEO（ジオ）

初訂版

●地図・写真・統計・作業の地理学習に必要な要素を網羅した資料集

AB 判 256 頁
定価：本体価格 890 円＋税

付属品 ◆別冊「地理ワークノート」（B5 判 34 頁）,「ワークノート解答」（B5 版 16 頁）
◆「最新地理図表 GEO DVD - ROM」（教師用）

地歴最新資料　第 20 号

教育図書出版
第一学習社

2017 年 9 月 25 日発行

東　京：〒 102-0084　東京都千代田区二番町 5 番 5 号　☎ 03-5276-2700
大　阪：〒 564-0052　吹田市広芝町 8 番 24 号　☎ 06-6380-1391
広　島：〒 733-8521　広島市西区横川新町 7 番 14 号　☎ 082-234-6800

札　幌：☎ 011-811-1848　青　森：☎ 017-742-4600　仙　台：☎ 022-271-5313
新　潟：☎ 025-290-6077　つくば：☎ 029-853-1080　東　京：☎ 03-5803-2131
横　浜：☎ 045-953-6191　金　沢：☎ 076-291-5775　名古屋：☎ 052-769-1339
神　戸：☎ 078-937-0255　広　島：☎ 082-222-8565　福　岡：☎ 092-771-1651
沖　縄：☎ 098-896-0085

88288H02

ホームページ　http://www.daiichi-g.co.jp/